

Araki Murashige escaped from Arioka Castle at night, taking only a few followers with him. As a result, those who remained in the castle could bear no longer the blockade and asked Nobunaga for mercy. However, Nobunaga put the hostages to death. Nobunaga eradicated the Araki clan, whilst creating the impression that he did so with Imperial connivance, if not approval.

【語注】 escape from ～～から逃亡する take ～を連れて行く (taking は分詞構文) follower 近習、家来 as a result その結果 those who ～～する人々 remain 残っている bear ～に耐える no longer もはや～ない blockade 包囲網 ask sb for mercy (人)に慈悲を乞う put ～ to death ～を処刑する hostage 人質 eradicate ～を根絶やしにする clan 一族 whilst ～一方～ create the impression that ～～という印象を与える did so = eradicated the Araki clan Imperial 朝廷の connivance 黙認 approval 是認

【英語の視点】 ～ if not...

〔第2文〕 those [who remained in the castle] ① could bear no longer ～ and ② asked Nobunaga for mercy who ～ castle は関係代名詞節。and は could bear と asked を並列に結ぶ (S1)。

〔第4文〕 Nobunaga eradicated the Araki clan, (whilst creating the impression [that he did so with Imperial connivance, if not approval]. )

whilst (≡ while) の直後に he was の省略。the impression that ～の that は同格 (S49)。～ if not... は「...とは言わないまでも～」という意味の構文。～と... は文法的に同じ形をしている。本文の with Imperial connivance, if not approval の部分は「朝廷の是認とまでは言わないまでも、朝廷の黙認という形で」となる。

ex. His clothes are neat, if not stylish.

「彼の服装はおしゃれとまでは言わないが、ござっぱりしたものだ」

荒木村重は数人の近習(側近くに使える家臣)だけを連れて夜中に有岡城から逃亡した。その結果、城に残された者たちは包囲軍に耐えられず、信長に慈悲を乞うた。しかし、信長はこの人質たちを処刑したのである。信長は荒木一族を根絶やしにした。一方で、それを、朝廷の是認とまでは言わないが、黙認という形で執り行ったという印象を与えたのである。

【歴史の視点】 死を覚悟で官兵衛の子を助けた半兵衛

播磨御着城主の小寺政職の家臣に黒田官兵衛がいた。信長が中国地方に目を向け始めると、官兵衛は毛利ではなく信長に味方するよう主君を説得する。味方の証として彼は息子の松寿丸(後の黒田長政)を信長に人質として差し出した。松寿丸は秀吉に預けられた。

荒木村重が謀反を起こした際、黒田官兵衛も村重の説得に行ったのだが、官兵衛は捕らえられ牢獄に入れられてしまう。官兵衛が戻ってこないことを聞いた信長は官兵衛が村重側に寝返ったものと速断して、官兵衛の息子松寿丸を殺せと秀吉に命ずる。その折、秀吉の軍師竹中半兵衛が密かに松寿丸を匿い、信長には処断したと嘘をついた。もし信長に知られたら死罪である。竹中半兵衛はこの頃病で余命いくばくもないことを悟っていたので、死を覚悟で思い切った処置に出た。竹中半兵衛はやがて病没する。荒木村重の有岡城が降伏して黒田官兵衛が助け出されてから、自分の息子が無事であることを知って官兵衛は喜ぶ。秀吉の名軍師2人の美談である。

信長は荒木村重の配下の高山右近を寝返らせようと、宣教師オルガンティーノを遣わす。右近は信長に降る。1578年に甲鉄船による織田水軍が毛利水軍を撃破して石山本願寺に兵糧の搬入ができなくなり、戦況が悪化したことを悟った村重は、数人の家臣を連れて有岡城を脱出した。あとに残された者たちは降伏したが、見せしめとして重臣の妻子の一部は磔、一部は小屋に押し込められて焼き殺された。村重の妻子は京都六条河原で斬首された。当の村重は信長死後も生き延びる。